西川松子（にしかわまつこ）　ロシア文學飜譯家、社會運動家。明治十八年四月二十八日廣島市大須賀町生れ、昭和十一年十月十七日歿（一八八五―一九三六）。舊姓神川、本名マツ。筆名神川松子、神川松葉、神川生等。明治二十六年廣島女學校卒。上京して日本女子大學に入るも、その良妻賢母主義の保守的教育に嫌ず、程なく退く。その後平民社に出入りし始め、松岡（西川）文子、堀（大杉）保子等と共に社會主義婦人講演會などの傳道活動に從事。また福田英子が創刊した雑誌『世界婦人』に論説、詩歌等を執筆。四十二年赤旗事件に連坐し、無罪出獄後西川末三と結婚。この頃二葉亭四迷に師事、次で昇曙夢に就きロシア文學を學んで、特にイワン・ブーニンの作品を雑誌『創造』、『早稲田文學』、『新潮』、『露西亞評論』等に順次飜譯發表、日本に於けるブーニン〈最初の紹介者〉として記憶されなければならぬ。（神崎清）仕事を遺す。他に『革命史上に現はれた露西亞婦人』（大正七年一月十日第二帝國社『第二帝國』第九十一號所收）や、『露西亞評論』にブーニン論等を書くも、大正九年夫が創業した測量器の製作所の事に專念、爾後文筆活動から離れた。

革命史上に現はれた
露西亞婦人
西川松子